※令和４年度以降入学生用

学校番号	2102

令和５年度　商業科

教科	商業	科目	簿記①	単位数	２単位	年次	全年次
使用教科書	「簿記 新訂版」　（東京法令出版）						
副教材等	「完全段階式 標準検定 簿記問題集 全商３級」（東京法令出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

簿記は、根気強く継続して学習しなければ力がつきません。欠席することなく、自宅学習することもできるという生徒さんでなければ修得は難しいかもしれません。
前期の簿記と後期の簿記②を学習すれば、簿記検定３級に挑戦することができますので、検定取得をめざす方は、後期の簿記②を必ず登録するようにしてください!!

２　学習の到達目標

簿記に関する知識と技術を習得し、その基本的な仕組みについて理解するとともに、適正な会計処理を行う能力と態度が育まれることを目標とします。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な知識を身につけ，簿記の基本的なしくみについて理解している。 個人企業における簿記に関する基礎的・基本的な技術を身につけ，いろいろな場面において適正な会計処理を行う。	いろいろな処理法や記帳法について，なぜ，そのように行うのかなど自ら思考を深め，基礎的・基本的な知識と技術を活用して適切に判断し，創意工夫する能力を身につけている。 また，適正な会計処理を行う能力を適切に表現できる。	個人企業における簿記に関心をもち，その知識と技術の習得をめざして意欲的に取り組むとともに，企業において日常発生する取引について適正な会計処理を行う実践的な態度を身につけている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期前半	第１編簿記の基礎	第１章 簿記の基礎 第２章 資産・負債・純資産と貸借対照表 第３章 収益・費用と損益計算書 第４章 取引と勘定 第５章 仕訳と転記 第６章 仕訳帳と総勘定元帳 第７章 試算表 第８章 精算表 第９章 決算	a：簿記の意味・目的・歴史や資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および損益計算書・貸借対照表の作成，さらに簿記一巡の手続きに関する基礎的・基本的な知識を身につけ，内容を理解している。仕訳帳および総勘定元帳の記入や損益計算書・貸借対照表などの作成に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。 b：なぜ，簿記をつけるのか，なぜ，勘定を設けるのか，貸借が平均するのはなぜか，資本の増減を収益と費用に分けて記録するのはどうしてかなどについて考えている。 c：簿記の意味・目的・歴史などの簿記の基礎的内容や資産・負債・純資産（資本）・収益・費用の意味および損益計算書・貸借対照表の作成，さらに簿記一巡の手続きに関心をもち，自分から進んでまとめたり，問題演習に取り組んだりする。	・単元テスト ・問題演習	・単元テスト ・ワークシート	・ワークシート ・小テスト

※令和４年度以降入学生用

前期後半	第2編 取引の記帳（その1）	第10章 現金・預金などの取引 第11章 商品売買の取引 第12章 掛け取引 第13章 手形の取引	a: 商品売買取引など個人企業における基本的な取引の構造を理解し，取引の記帳に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。また，各種補助簿の役割を理解し，簿記の目的の一つに財産管理があることを理解している。 商品売買取引など個人企業における基本的な取引の仕訳，総勘定元帳への転記，各種補助簿の記入など，取引の記帳に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。 b: なぜ，このように仕訳するのか，なぜ，補助簿はこのように記入するのか，補助簿の役割は何かなどについて，考えている。また，資本に関する取引について，資本が計算上の概念であるという点から取引の意味を考えている。 さらに，経営活動を明瞭に表現することができる。 c: 商品売買取引など個人企業における基本的な取引の記帳は，どのように行うのかについて関心をもち，自分から進んでまとめたり，問題演習に取り組んだりする。 また，課題の提出などは，期日までに確実に行い，理解できない内容については，自分で調べたり，積極的に質問したりする。	・単元テスト ・問題演習	・単元テスト ・ワークシート	・ワークシート ・小テスト

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度